
2022年度 事業報告書

学校法人 東洋学園

目次

1 学校法人の概要	
(1) 建学の精神	… 1
(2) 設置する学校、学部・学科	… 1
(3) 沿革	… 2
(4) 組織図	… 3
(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況	… 4
(6) 役員（理事・監事）、評議員	… 5
(7) 教職員数等	… 7
2 事業の概要	
・ 中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に	… 8
・ 学部・学科の概要	… 8
・ 教育関連活動	… 10
・ 施設・設備の拡充等	… 10
・ 認証評価への対応	… 10
・ 英語教育・国際交流の充実	… 11
・ 学生支援	… 13
・ 入学試験関連	… 16
・ 卒業・終了の状況	… 16
・ 社会連携・社会貢献	… 16

2022年度 事業報告書

1. 学校法人の概要

【学校法人名】 ガッコウホウジン トウヨウガクエン
学校法人 東洋学園
(大臣認可年月日 昭和26年2月24日)

【主たる事務所】 東京都文京区本郷1丁目26番3号

(1) 建学の精神 自彊不息

本学の建学の精神として継承されてきた「自彊不息(じきょうやまず)」は、創立者・宇田尚が生涯を通して学生に伝え続けた、学びや人生の基本姿勢を表している。中国に伝わる易経の文言で、その意味は「自ら弛まず努力を続ける」ということ。大正時代、良妻賢母を良しとしていた社会通念を否定し、女性の歯科医師養成に励んだ宇田は、学生が信頼される専門家になり、自立し、自律した人間になることを求め、そのための指針として掲げたのが「自彊不息」である。時が過ぎ、社会の在り方や学校の形態は変わっても、建学の精神は不変である。「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて、「自彊不息」を受け継いでいる。

(2) 設置する学校、学部・学科

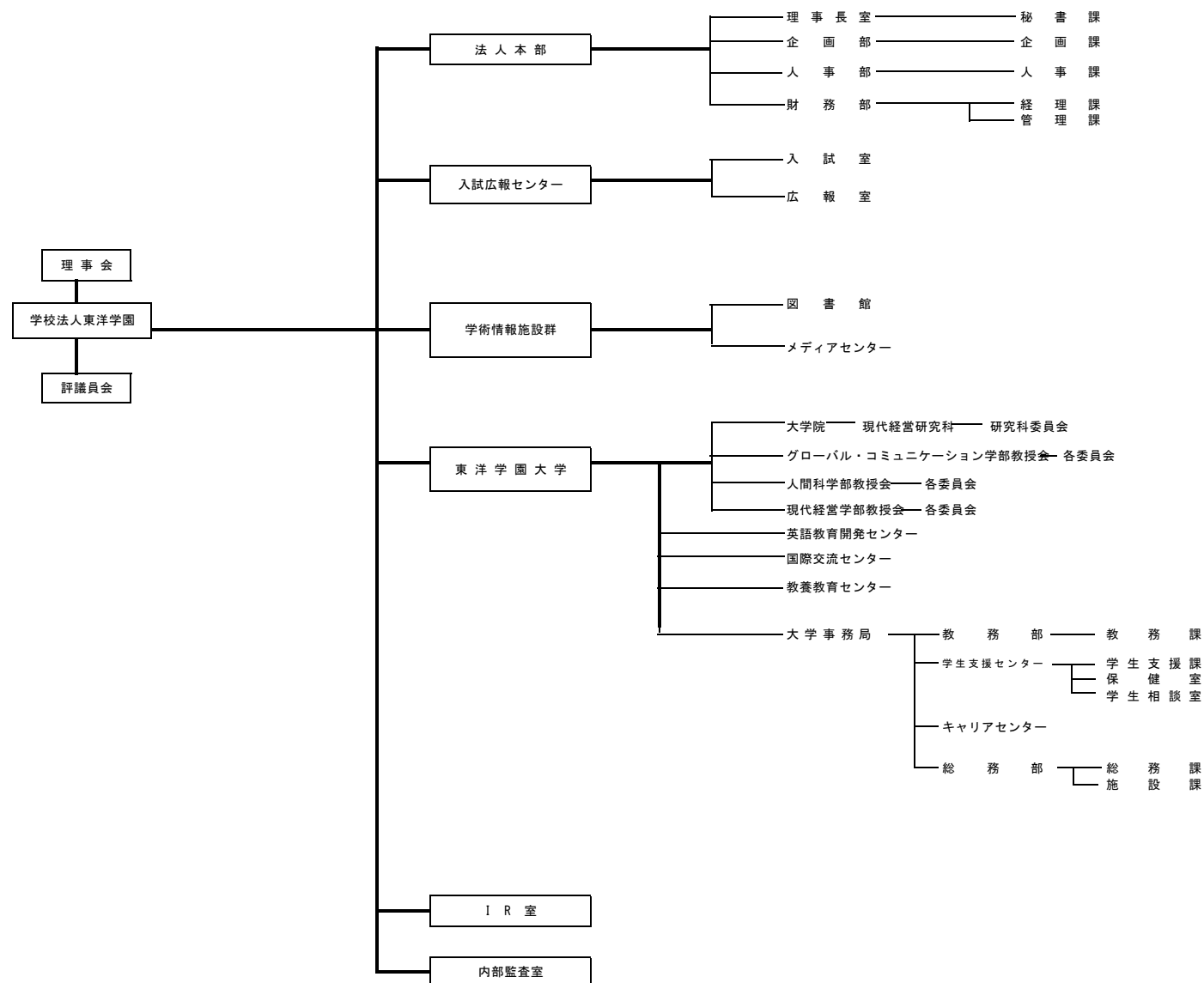
設置する学校											
フリガナ 学 校 名 (大学本部の位置)	学 部 ・ 学 科 等 名 (所 在 地)	開 設 年 度	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2022年5 月1日現在 の学生数	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	2023年5 月1日現在 の学生数	備 考
トウヨウガクエンダイガク 東洋学園大学 東京都文京区本郷一丁目26番3号	現代経営学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)	年度	2022				2023				
			名	名	名	名	名	名	名	名	
	現代経営学科	H 14	215	35	930	865	245	35	960	887	2023年度入学定員変更 (215人→245人)
	人間科学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
	人間科学科	H 14	200	20	840	815	200	20	840	812	
	グローバル・コミュニケーション学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
	グローバル・コミュニケーション学科	H 25	120	10	500	457	110	10	490	425	2023年度入学定員変更 (120人→110人)
	英語コミュニケーション学科	H 25	120	10	500	402	100	10	480	322	2023年度入学定員変更 (120人→100人)
	東洋学園大学大学院 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
	現代経営研究科 現代経営専攻	H 20	10	-	20	9	10	-	20	7	
東洋学園大学 計			665	75	2,790	2,548	665	75	2,790	2,453	

(3) 沿革

学校法人東洋学園は自彊不息(じきょうやまず)の精神を建学の理念に掲げ、女性の自立のため歯科医師を養成する東洋女子歯科医学専門学校(旧制)として1926(大正15)年に建学し、以来90余年の歴史を有します。戦禍で施設を焼失した後は東洋女子短期大学として再発足し、英語教育に力を入れてきました。1992(平成4)年から男女共学の四年制大学となり、グローバル化が進む現代にあって時代の変化に対応できる力を身につけ、世界の発展に貢献できる人材の育成を使命としています。

大正6(1917)年	9月	前身・明華女子歯科医学講習所開校(翌年、歯科医学校に改組)
大正10(1921)年	12月	専門学校令による明華女子歯科医学専門学校に改組(女子初)
大正15(1926)年	11月	東洋女子歯科医学専門学校、文部大臣指定校(女子初)として創立
昭和3(1928)年	8月	ドイツ近代復興様式の校舎・寮竣工
昭和16(1941)年	5月	全て女性による歯科医学学術大会を举行
昭和20(1945)年	4月	第二次世界大戦の空襲により施設を焼失
昭和21(1946)年	5月	千葉県津田沼町(現習志野市)の仮校舎に移転
昭和22(1947)年	4月	第1回歯科医師国家試験、合格率全国2位の成績
	5月	学制改革により女子歯科医専の廃止決定
	9月	旧制・東洋高等学校(理科乙類＝医学部予科)開校
昭和23(1948)年	11月	本郷校舎復旧
昭和25(1950)年	3月	東洋女子歯科医専第25回生、東洋高等学校第1回生卒業(最終)
	5月	新制・東洋女子短期大学(英語科)開学、英語科教員養成を開始
昭和36(1961)年	2月	本郷旧1～3号館第1期工事竣工建築家・今井兼次による「フェニックス・モザイク」完成
昭和39(1964)年	4月	コース制を設定、LL施設本格稼働開始
昭和42(1967)年	9月	千葉県流山市に流山キャンパス開設
昭和48(1973)年	4月	学科名称を英文科に変更、専攻科を設置
昭和53(1978)年	4月	学科名称を英語英文科に変更
昭和57(1982)年	4月	流山キャンパスに英米総合研究を骨子とする欧米文化学科を開設
平成4(1992)年	4月	東洋学園大学(人文学部英米地域研究学科・英米言語学科)開学
平成7(1995)年	4月	短大専攻科、学位授与機構認定となる
平成12(2000)年	4月	大学人文学部コミュニケーション学科開設
平成14(2002)年	4月	大学人文学部人間科学科、現代経営学部現代経営学科開設
平成16(2004)年	4月	大学人文学部、既存3学科を再編し国際コミュニケーション学科開設
平成18(2006)年	3月	東洋女子短期大学第55回生卒業(最終)
平成19(2007)年	3月	本郷新1号館竣工
平成20(2008)年	4月	東洋学園大学大学院 現代経営研究科現代経営専攻開設
平成25(2013)年	4月	人文学部をグローバル・コミュニケーション学部、人間科学部に再編
平成26(2014)年	4月	就学キャンパスを学部別に再編
	4月	国際キャリアプログラム(ICP)開始
平成28(2016)年	4月	就学キャンパスを本郷に統合
	11月	創立90周年
令和4(2022)年	4月	東洋学園大学開学30周年

(4) 組織図



(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況

学校名	学部・学科名	2023年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	245名	630名	610名	563名	251名	1.02	960名	887名	0.92	1.01
						204名	0.83				0.72
	人間科学部 人間科学科	200名	404名	396名	368名	208名	1.04	840名	812名	0.97	1.02
						183名	0.92				0.79
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	110名	158名	156名	152名	94名	0.85	490名	425名	0.87	0.88
						88名	0.80				0.70
	英語コミュニケーション学科	100名	102名	97名	84名	44名	0.44	480名	322名	0.67	0.67
						41名	0.41				0.47
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	6名	6名	2名	1名	0.10	20名	7名	0.35	0.48
						0名	0.00				0.00
学校名	学部・学科名	2022年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	215名	674名	644名	550名	231名	1.07	930名	865名	0.93	1.02
						178名	0.83				0.67
	人間科学部 人間科学科	200名	446名	433名	390名	188名	0.94	840名	815名	0.97	1.02
						149名	0.75				0.78
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	120名	223名	213名	205名	78名	0.65	500名	457名	0.91	0.93
						62名	0.52				0.69
	英語コミュニケーション学科	120名	178名	171名	155名	63名	0.53	500名	402名	0.80	0.83
						43名	0.36				0.56
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	2名	2名	2名	2名	0.20	20名	9名	0.45	0.55
						0名	0.00				0.00
学校名	学部・学科名	2021年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	215名	1025名	973名	478名	196名	0.91	930名	850名	0.91	1.03
						145名	0.67				0.66
	人間科学部 人間科学科	200名	580名	563名	381名	197名	0.99	840名	832名	0.99	1.07
						149名	0.75				0.84
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	120名	371名	363名	268名	119名	0.99	500名	472名	0.94	1.03
						97名	0.81				0.73
	英語コミュニケーション学科	120名	321名	309名	225名	90名	0.75	500名	467名	0.93	1.00
						62名	0.52				0.72
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	9名	9名	8名	7名	0.70	20名	14名	0.70	0.63
						0名	0.00				0.00
学校名	学部・学科名	2020年度									平均入学定員超過率 下段：推薦入学
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 下段：推薦入学	入定充足率 下段：推薦入学	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	現代経営学部 現代経営学科	215名	934名	877名	388名	221名	1.03	930名	894名	0.96	1.13
						112名	0.52				0.73
	人間科学部 人間科学科	200名	693名	671名	356名	220名	1.10	840名	845名	1.01	1.12
						153名	0.77				0.89
	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科	120名	348名	334名	194名	121名	1.01	500名	445名	0.89	1.02
						84名	0.70				0.69
	英語コミュニケーション学科	120名	375名	365名	202名	112名	0.93	500名	508名	1.02	1.15
						70名	0.58				0.85
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	12名	12名	9名	9名	0.90	20名	13名	0.65	0.70
						0名	0.00				0.10

※下段は、推薦入学(内数)。
※ 平均入学定員超過率は当該年度を含めた4年間の状況。
※ 人数等は、各年度5月1日現在の状況。
※ 小数点第3位切り上げ

(6) 役員(理事・監事)、評議員

〈2022年度理事・監事〉

理事・監 事の区別	職名又は 担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・ 非常勤 の区別	選任区分等	
				号	選任区分
理 事	理事長	アイチ タロウ 愛知 太郎	常勤	2	評議員
理 事	常任理事	ツジナカ ユタカ 辻中 豊	常勤	1	学 長
理 事	理 事	カワガミ ノブアキ 川上 伸昭	非常勤	2	評議員
理 事	理 事	フジマキ タケシ 藤巻 健史	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	トダ ナオコ 戸田 直子	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	マエタ マサフミ 前田 正史	非常勤	3	学識経験者
理 事	常任理事	オオハシ ヨウスケ 大橋 洋介	常勤	3	同 上
理 事	理 事	セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	非常勤	3	同 上
監 事	監 事	ミノウラ リュウイチ 箕浦 龍一	非常勤	7	理事会選任
監 事	監 事	クスノキ ノブアキ 楠 誠晃	非常勤	7	同 上

(2023年3月末日現在)

理事長	選任条項	5-2	理事の互選
(定数) (現員) (任期)		6-1-1	学長 (定数1名)
理 事 8名 8名 4年		6-1-2	評議員(評議員会選任) (定数4名)
(1号除く)		6-1-3	学識経験者(理事会選任) (定数3名)
監 事 2名 2名 4年		7	監事(評議員会の同意を得て理事長が選任) (定数2名)

〈2022年度評議員〉

フリガナ 氏 名	選任区分等		備考
	号	選任区分	
ツジナカ ユタカ 辻中 豊	1	学 長	兼理事
アイチ タロウ 愛知 太郎	2	法人職員	兼理事長
タカオ タユキ 高尾 享幸	2	同 上	
アベ ハジメ 阿部 一	2	同 上	
ウダ タカオ 宇田 隆生	2	同 上	
トダ ナオコ 戸田 直子	3	同窓生	兼理事
トヅカ ヒサコ 富塚 比咲子	3	同 上	
ウチダ ミヨ 打田 美代子	3	同 上	
タナベ エイチ 田邊 栄一	4	学識経験者	
カワガミ ノブアキ 川上 伸昭	4	同 上	兼理事
タナカ イワオ 田中 巖	4	同 上	
マエダ マサフミ 前田 正史	4	同 上	兼理事
フジマキ タケシ 藤巻 健史	4	同 上	兼理事
ヨシタケ ヒロミチ 吉武 博通	4	同 上	
セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	4	同 上	兼理事
タカシマ ハツヒサ 高島 肇久	4	同 上	

(2023年3月末日現在)

評議員	(定数)(現員)(任期) 17名 16名 4年 (1号除く)	選任条項	21-1-1 学長(定数1名) 21-1-2 法人職員(理事会選任)(定数4名) 21-1-3 同窓生(理事会選任)(定数3名) 21-1-4 学識経験者(評議員会選任)(定数9名)
-----	--------------------------------------	------	--

(7)教職員数等

〔教育職員〕

	2022年5月1日現在					2023年5月1日現在					
	東洋学園大学					東洋学園大学					
	学 長 辻 中 豊					学 長 辻 中 豊					
	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	大学合計	学長・副学長	グローバル・コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	その他	大学合計
学 長	1名				1名	1名					1名
副 学 長	0名				0名	0名					0名
教 授		15名	10名	9名	34名		12名	12名	10名		34名
准 教 授		8名	6名	8名	22名		7名	4名	7名		18名
専任講師		8名	3名	3名	14名		6名	2名	6名	2名	16名
助教		0名	1名	0名	1名		1名	1名	0名		2名
専任合計	1名	31名	20名	20名	72名	1名	26名	19名	23名	2名	71名
兼任講師	0名	49名	47名	50名	146名	0名	42名	45名	50名	0名	137名

〔事務職員、嘱託職員、現業・技術職員〕

	2022年 5月1日現在	2023年 5月1日現在
事務職員・嘱託職員	78名	72名
技術職員・現業職員	0名	0名
合 計	78名	72名

2. 事業の概要

【中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に】

「100周年に向けて、選ばれる大学に」を掲げ、2020年4月に東洋学園中期計画（2020～2024）を策定した。近年の社会情勢の急激な変化により、学生の修学環境も大きく変化している。本学園は学生の学びの環境をより一層高めるため、2022年度に中期計画の修正を行った。これまでの6つのマスタープラン（1.教育理念の明確化 2.切れ目のない教育支援 3.充実の学生生活支援 4.グローバル化と地域連携の推進 5.キャリアサポート・就職支援体制の強化 6.財政基盤の安定とガバナンスの強化）に「7.退学防止への取組」を新たに追加した。中期計画の3年目に着手すべき事項として50項目の2022年度の実行計画を策定したところ、達成率は85%（昨年度67%）と昨年度より18%向上した。

【学部・学科の概要】

〈グローバル・コミュニケーション学部〉

グローバル・コミュニケーション学科（入学定員120名 3年次編入学定員10名）

自国や諸外国の地域や文化、社会に関する知識の理解を深めるとともに、現代社会における重要な主題や現代社会が直面する諸課題に関する知識及び社会事情について総合的に理解することにより、実際に生起する社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有して、ビジネスや文化交流、社会活動、地域貢献などの幅広い分野で中核的な役割を担うことができる人材の養成を目指し、以下の3コース体制で運営した。

- ・国際関係コース
- ・グローバル協力コース
- ・グローバル交流コース

英語コミュニケーション学科（入学定員120名 3年次編入学定員10名）

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の情報や相手の意向などを理解し、自分の考えを表現するコミュニケーション能力を養うとともに、英語に関する専門的な知識の理解のもとに、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、国際社会や英語教育活動に必要となるコミュニケーション能力を有して、国際関連産業や文化関連産業、教育関連産業などの幅広い分野で活躍することができる人材の養成を目指し、以下の2コース体制で運営した。また、教職課程が配置されており、履修により、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる。

- ・英語キャリアコース
- ・英語文化コース

〈人間科学部〉

人間科学科（入学定員200名 3年次編入学定員20名）

人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参加し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力、および社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を習得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指し、以下の3コース体制で運営した。

- ・心理・カウンセリングコース
- ・スポーツ健康コース
- ・人間社会コース

〈現代経営学部〉

現代経営学科（入学定員215名 3年次編入学定員35名）

変貌を遂げる社会的環境の中で、多様化、高度化、複雑化、国際化する現代的な経営課題を的確に認識し、現代的な視点から問題解決ができる基礎的な知識や能力に加えて、21世紀の現代の社会人に求められている幅広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的とし、以下の7コース体制で運営した。

（経営学専攻）

- ・企業マネジメントコース
- ・起業ショップ・経営者二世コース
- ・会計情報コース

（マーケティング専攻）

- ・広告・マーケティングコース
- ・流通・サービスビジネスコース

（経済学専攻）

- ・経済・公共コース
- ・金融コース

〈大学院現代経営研究科〉

現代経営専攻（修士課程 入学定員10名）

東洋学園大学の教育精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業等を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与することを目的としている。

【教育関連活動】

○認証評価対応

CAP制度の変更の運用が開始されることに伴う退学防止策として、上限単位数の見直し、また履修中止制度、再試験対象学年の拡大など、昨年度検討した対応策を確実に実施した。教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ及びつながりを示したカリキュラム・ツリーの作成を教務委員会と検討し、更にCPのシラバスフォームへの反映を行って各科目の授業内容・到達目標との関連を明確化するなどの対応も併せて行った。

○次年度カリキュラム改編対応

3 学部が同時に次年度カリキュラム改編を行うことに伴い、学部の専任教員と協力して調整を行った。

○対面授業拡大への取組

新型コロナウイルスの感染拡大状況や社会情勢を踏まえ、秋学期には当初オンラインを予定していた授業を一部対面に戻すなど、アフターコロナに向けた取り組みを行った。ただ引き続き3割程度は受講時間の柔軟性（時間の制約、繰り返し学習等）や、メディアを利用することによる教育内容の多様化などの利点を活かしたオンライン授業（課題提示型・映像配信等によるオンデマンド型）も継続して行った。

【施設・設備の拡充等】

○1号館

- ・1号館外壁工事を行った。
- ・1号5階食堂を改修した。

○5号館

- ・5号館6階学生ロビーを48名収容の教室に改修した。

○1.4.5号館

- ・自動火災報知設備を更新した。

○東洋学園大学グラウンド

- ・テニスハードコート3面及びクラブ棟を2棟新設した。

○旧流山キャンパス

- ・全修復工事を完了し、売却先である流山市に引き渡した。

【認証評価への対応】

公益財団法人大学基準協会による認証評価において、2018年4月1日～2025年3月31日の期間における適合認定を受けているが、努力課題として一部指摘を受けた事項について

は2021年6月に改善報告書を提出し、年度明けに改善報告書検討結果の通知を受けた。一部改善が認められない項目があるので引き続き対策を講じていく。

【英語教育・国際交流の充実】

○ 長期留学制度

	申請条件	奨学金
国際交流センター特別留学	GPA3.3~、TOEIC500~	50万円/年
本学/JSAF 協定校留学	GPA3.0~、TOEIC450~	奨学金 30万円/年
認定留学	GPA2.5~、TOEIC350~	なし

本制度利用時：①授業料減免、②単位認定があり、③在籍期間とすることによって4年間での卒業が可能となる。2022年度の制度利用者は5名（アメリカ、アイルランド、韓国、オーストラリア）だった。

その他に、休学して海外での経験を積みたい学生に奨励金 20万円/年を支給する「海外経験休学サポート制度」の実施を開始した。2022年度利用者は1名だった。

○ 短期留学

夏季にイギリスプログラムを実施した。参加者は8名だった。

○ 国際交流プログラム

留学先各国について知るイベントや留学経験を就活、将来のキャリア構築にどのように活用するかなど (Future Me) 多様なプログラムを行った。また Social Media Intern としてインスタへの投稿やイベント情報発信を学生が行ない、協働することでコミュニティ意識を育んだ。

各国紹介イベント

イギリス、カナダ・アメリカ、スペイン、韓国などの国をテーマにそれぞれの国の文化を紹介するイベントをグローバル・ラウンジにて行なった。インスタ投稿を促すようなクイズ、投稿者には景品を用意するなどして、フォロワーを増やした。

Future Me

・Virtual SHSU×TOGAKU「サブカル業界への就職」

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学 (SHSU) との交流イベントにゲストを呼んで Zoom にて開催した。

・「女性のキャリア戦略：NYファッション業界の事例から考える」

NYからのゲストスピーカーによる講義とワークショップを実施し、学生自身の体験を将来のキャリアに結び付けるヒントが示された。

・「大学時代の長期留学の話、留学が現在の職業にどういった影響を与えたか」

大手旅行代理店に勤める本学卒業生に、費用工面、留学前後の英語力について、留

学と今の仕事について話を聞き、質疑応答をした。

・「中国語学習、留学、将来のキャリアについての体験談」

現在留学中の本学卒業生に、大学時代の留学、中国語との関わりなどを聞いた。これから留学を考える学生からの質問も多かった。

○ COIL (Collaborative Online International Learning : オンライン国際交流学習)

アメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学 (SHSU) の学生とオンラインでのプロジェクトを行なった。人を評価する基準としての能力主義について、日米の事例を取り上げながら「能力主義の限界」についてセッションを行なった。参加学生は8名だった。

○ 国際キャリアプログラム (International Career Program)

1年間の留学が必須のプログラムであるが、新型コロナウイルス感染症により留学時期の延期をしたため、春学期に8名が出発、秋学期に8名が出発した。履修者の留学先は次の通り。

- ・カリフォルニア州大学フラトン校 (アメリカ)
- ・カリフォルニア大学アーバイン校 (アメリカ)
- ・ミネソタ州立大学マンケート校 (アメリカ)
- ・ノースアラバマ大学 (アメリカ)
- ・テネシー工科大学 (アメリカ)
- ・ウェスタンオレゴン大学 (アメリカ)

○ インターン

国際交流センターが2020年度より受け入れ後、継続雇用となっていたインターンと英語教育開発センターが2021年9月より新規雇用したインターンの計2名が2022年7月まで、また、この2名と交代で2022年9月より新規雇用の2名のインターンが10月および12月まで授業補助やイングリッシュ・ラウンジの運営等に積極的に関わり、学生の英語教育の充実に寄与した。

○ VEL (Virtual English Lounge)

授業期間中の平日昼休み (12:15~12:50) に Zoom 上で VEL を開催し、英語話者の教員、インターンが学生とフリートークを行った。またカルチャーイベント、クリスマスイベントなどの行事を各学期3回ずつ実施し、学生に生きた英語に触れる機会を提供した。

○ ALPS(Academic Learning & Professional Skills：英語特別選抜クラス)

ALPS クラスは、全学部の 2～4 年生を対象にした英語の特別選抜クラスであり、履修が認められた学生は、ビジネスおよび学術的な目的（論文執筆、留学、大学院進学など）のために必要とされる英語のスキルをみがく。授業は週 2 回行われ、毎回の課題も多いが、意欲的な学生は高い英語力とソフトスキルを身につけることができる。学年末には発表会を開催し、人物学業ともに優秀で他学生の模範となった学生 1 名にセンター長賞を授与し、プログラムを完了した学生には ALPS 修了証を授与した。

○ 高大連携

高校生スピーチコンテストの松戸地区大会にて、英語教育開発センター運営委員の教員 1 名とインターン 1 名が審査員として協力参加した。

本学入学予定者向けにバーチャル・イングリッシュ・ラウンジ・イベントを実施し、本学について、また、本郷エリアについてのクイズを行なった。

【学生支援】

学生支援センターは 2019 年度より、学生支援課、保健室、学生相談室で構成される新たな学生支援部門として発足し 4 年目を迎え、様々な場面において連携、協働し、その体制は定着しつつある。主な業務は、心身の健康、クラブ活動、奨学金、修学支援、留学生、日常生活への支援など学生生活全般と幅広く、学生が学習に専念し、安定した学生生活を送れるよう、それぞれの部署が学生支援にあたっている。

2022 年度においても新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、少なからず所管する業務の遂行にも及ぶこととなったものの、昨年度の対応実績により、感染状況の変化に応じ、その都度慌てることなく対処した。

< 学生支援課 >

学生支援課は、学生生活の総合支援窓口として、日々の学生生活の支援を行っている。年度当初より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は少なからずあったものの、昨年度の経験を踏まえ、新入生の入学事務手続き、各学年のオリエンテーション等の学内行事は、学内における感染防止対策を十分に講じ、対面での実施となった。秋学期のオリエンテーションは、十分な感染防止対策を講じたうえで、対面を基本として実施した。

○ 学生行事

学生行事については、学生総会は通信総会、体育祭はコロナ禍前と同様、春学期秋学期ともに実施した。クラブ会員勧誘については、感染症防止対策を講じながら対面で実施した。また学内に各学生団体の PR ポスターをパネル展示するなどして、各学生団体の新

入生部員獲得を支援した。フェニックス祭（学園祭）については、2021 年度のオンライン開催の経験を活かしつつ、最終日は対面で開催し予定通り 2 日間開催することができた。

各クラブの日々の活動については、昨年度に引き続き学生自らが感染防止対策を考え活動することを基本に、自覚ある活動を促した。活動を行う団体には、感染予防計画書の作成とその遵守を求め、保健室が行う感染予防講習会を受講することで、感染防止とクラブ活動（合宿等一部制限あり）の両立を図った。

また、2022 年 4 月に文京学院大学と課外活動における「文京学院大学と東洋学園大学との課外活動等における相互交流に関する協定書」を締結し、学生会活動、あるいは学生団体単位での交流において、両大学の学生支援担当部署も連携し、交流機会を設けることとなり、2022 年度は学生団体間の交流機会を設けた。

○ 奨学金

奨学金関連では日本学生支援機構奨学金、国が所管する高等教育の修学支援新制度のほか、2020 年度には本学独自の支援策として、従来の東洋学園奨学金（給付）に加え、学びの奨学金（学部生 40 万円、院生 30 万円の給付）の募集、修学環境支援としてノート PC の貸出を行い、コロナ禍における経済的な学生支援を行った。なお、学びの奨学金については、コロナ禍における緊急支援対策として新設されたが、社会経済活動の再開に伴い応募人数も減少傾向にあることから、2023 年度は募集せず、従来の東洋学園奨学金採用枠を拡大する形で支援することとした。なお、罹災者救援減免制度でも 1 名対応し、経済的な側面から支援した。

2022 年度から本学同窓会独自の在学生向け給付型奨学金制度「東洋学園大学同窓会奨学金」が新設され、同窓会による在学生への経済的支援が実施され、その募集、手続きは学生支援課が担い、選考は学生支援委員会で行った。

○ 修学支援

修学支援に関しては、本学の修学支援制度に基づき、支援対象者は申請者だけでなく支援が必要と思われる学生についても対象とし、学生相談室、保健室から修学支援制度を説明し申請を促し学生支援課へつなぐなど、各部署担当職員が綿密に連携し速やかに支援を行った。

また、障がい学生支援に関して、支援体制の整備を行うにあたり、2022 年度に障がい学生支援に関する諸規程を策定し、2023 年度からその規程に基づき支援を行うこととした。

<保健室>

保健室は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策全般から学生個々の罹患者・濃

厚接触者対応まで担い、その対応方法も Forms で対応できるようにするなど、学生の利便性の向上を図った。また、学生の日々の健康維持・増進に関わる保健指導や健康相談、定期健康診断の実施、健康診断証明書の発行、体調不良や病気・ケガ等の応急処置等を行い、学生の健康や安全への配慮に努めた。

健康診断は、事前の感染予防行動の奨励等を学生に促すとともに、学内における感染防止対策を施し、計画通り 2022 年 3 月末から 4 月初めのオリエンテーション期間に実施し、約 85%の受診率を確保でき、コロナ禍においても学生の健康状態について大学としても十分把握出来たものと捉えている。課外活動における新型コロナウイルス感染症の感染予防対策についても、各クラブの活動内容に応じた感染予防知識の提供・注意すべき点など、正しい知識を感染予防講習会という形で提供し、学生に対する啓発・感染防止活動を行った。

<学生相談室>

学生相談室は、大学への適応や人間関係、進路、心の不調など、あらゆる事柄について相談を受け付け、また保護者・教職員と連携・協働することを通して、学生がより充実した生活を送れるように支援した。通年を通し開室し、様々な困りごとを抱えた学生に寄り添いながら、昨年度に引き続いて心の変調・不調等の解消に取り組んだ。

学生相談室の利用状況は年々増加しており、日々2名の体制で相談を受け付け、漏れなく対応できるよう努めている。相談増加要因の一つとして、3月下旬の新入生事務手続きにおいて、UPI (University Personality Inventory) 等を用いた健康調査を実施し、4月以降、高得点者等を対象に入学後の早期に呼出面談を開始して、学生とつながることができたことが挙げられる。2022 年度は、今後修学上の影響が大きいと感じられる学生の場合、本人の了承を得て呼出面談の内容をクラス担任へと連絡し、教員の学生指導に役立ててもらえるように情報共有した。

また、2022 年度の新たな取り組みとして、学生への早期支援の観点から「こころの健康相談（精神科相談）」を設置した。学生が学内で精神科医と相談できるようになり、精神医学的な立場からの助言を受けられるようになった。また教職員に対して、精神障害や発達障害のある学生対応に関してコンサルテーションを行った。

個別の相談以外には、年間を通してグループ活動を実施した。2022 年度は、学生同士が交流できる場の提供やものづくりの活動、外部講師によるストレスケアを目的とした講座、地域の就労移行支援事業所と連携した相談会など計 9 回実施し、延べ 40 名が参加した。

2023 年 2 月には外部講師による部署内研修会を開催し、相談室・保健室・学生支援課のスタッフが参加。その後の学生支援対応および連携体制等に活かしている。

【入学試験関連】

入学者選抜については、「学校推薦型選抜公募制」において2方式を新設し、特に〔スポーツ推薦方式〕は定員確保の大きな原動力となった。また、高大接続・内部質保証の観点から受験生サポートプログラムを2種類実施し、いずれも高い合格率（小論文添削プログラム合格率98%、プレゼン入試チャレンジプログラムACCEPT合格率100%）に結び付くプログラムとして実績を残した。

中期事業計画の一環として行っている「ましましプロジェクト」2年目の今年度は、各部署連携での対面イベントやLINEを通した入学予定者支援等、プロジェクト規模の拡大による一定の効果が見られるようになっている。

これらの取り組みにて、学校推薦型選抜や総合型選抜においては入学予定者516名を確保できた。一方で一般選抜（共通テスト利用方式含む）においては出願者数・事務者数の減少が続いたものの、昨年度より入学者は増加した。

今年度は、現代経営学部の入学定員を215名から245名に、グローバル・コミュニケーション学部の入学定員を240名から210名に変更を行った年度でもある。現代経営学部では一般選抜出願者の女子比率が昨年度より上昇（6.2%増）、変更後の定員を充足しており、女子の学部選択変化（語学系統減少、経営・経済系統増加）を裏付ける結果となった。

【卒業・終了の状況】

グローバル・コミュニケーション学部 221名、人間科学部 189名、現代経営学部 196名、現代経営研究科 4名卒業生を輩出した。

【社会連携・社会貢献】

1、文京区との連携

○文京アカデミア講座

2022年度は文京区と連携して文京アカデミア講座に参加した。

【前期】「運動・スポーツで豊かな人生」（澁谷教授他3名/全6回）

【後期】「短期間で実用的な英会話表現を学ぼう！」（中尾専任講師/全4回）

【後期】「援助を考える―国境を越えて誰かを「助ける」ということ―」（川口専任講師/全4回）

○文京区妊産婦・乳児救護所施設、文京区二次的な避難所（東洋学園大学1号館）

2023年3月7日に文京区総務部防災課の指導のもとに避難訓練を実施した。

○文の京ロード・サポート「東洋学園大学クリーンキャンペーンチーム」

本郷一丁目26番～本郷二丁目28番における、道路の美化清掃を行った。

2、地域貢献

○文京区本郷台中学校職場体験

9月に3日間文京区本郷台中学校4名の生徒を職場体験として受け入れた。

○公開講座（リベラルアーツ）

本郷キャンパスにおいて計7回にわたる公開講座（リベラルアーツ）を対面およびオンラインで実施した。

○現代経営研究会

業界・企業の経営者を招いての講座を対面およびオンラインにて一般公開した。

テーマ：「不確実な時代を読む」

○生涯学習講座

2023年2.3月に生涯学習講座を11講座実施した。

以上